

2021年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型) 記述式問題 解答

学部・学科:2月4日 神学部 神学科

4

問2

【出題意図および採点のポイント】

聖書の引用部分をもとに、創造記事に示されるキリスト教の人間観についての基本的な内容理解を確かめる問題である。また、その人間観を、環境・エコロジー問題という現代の具体的な事象に関連づけて説く思考力を要求する問題である。

【論述のポイント】

- 1.環境・エコロジー問題とは、一般的には「人間と大地(自然)とのかかわり」における人間主体の問題であり、直接的には人間のふるまいの問題であると考えられる。
- 2.一方、聖書の創造記事は、人間とは3つのかかわりの諸次元を有する「かかわりの存在」であることや、これらの3つのかかわりは相互に分かち難く密接につながっていることを示唆している。
- 3.人間存在の3つのかかわりが不可分であるという人間理解にもとづけば、環境・エコロジー問題を考察する際に、人間と自然とのかかわりのみならず、人間相互のかかわりや、人間と神とのかかわりをも考慮に入れるべきであるとの視野が開かれる。ゆえに、環境・エコロジー問題にとって、キリスト教の人間観が大切であると言える。

問3

【出題意図および採点のポイント】

聖書の引用部分が示唆する、キリスト教の人間観における3つのかかわりについて、これらには、本来あるべき調和のとれた状態が付与されていたのだという基本的理解を確かめる問題である。同時に、この調和を人間が破壊したことを、現代社会の諸問題に見てとり、環境問題や社会問題を例示しながら説く思考力を要求する問題である。

【論述のポイント】

- 1.かかわりの存在としての人間の3つのかかわりには、本来調和がとれた状態が与えられていたが、人間の側からこれらの調和を断裂したことをキリスト教では「罪」と理解する。
- 2.私たち人間が創られたものとしての限界を認めることを拒むという人間の内面的な不調和は、神とのかかわりの断裂であり、それは自然も人間も神の被造物であるということや、人間は自然や他者とのかかわりにおける本来の調和を保つ任の否定にもつながっている。
- 3.これが、人間と自然のかかわりや、人間と他者とのかかわりという人間に外在するものとのかかわりの不調和ももたらしている。
- 4.結果として、人間と自然のかかわりの不調和は、現代社会において、具体的には地球温暖化やアマゾン熱帯雨林破壊、プラゴミ問題や過剰な遺伝子操作の問題、原発など核のテクノロジーの問題など、さまざまな自然枯渇や汚染などの環境問題としてあらわれている。
- 5.また、人間と人間とのかかわりの不調和は、現代社会において、具体的には、先住民族やハンディキャップなど社会的弱者の差別や人権侵害の問題や、先進国と途上国の著しい経済格差や消費格差をはじめとする格差問題など、人間の尊厳を傷つける社会問題としてあらわれている。
- 6.人間と自然のかかわりの不調和による環境の諸問題も、人間と人間とのかかわりの不調和による社会の諸問題も密接につながっている。
- 7.このように、創造主の否定、神の排除という人間の内側の不調和は、自然や他者を大切にし、これらとの本来のかかわりの調和を守る根拠を自らのうちに見失うことを意味すると同時に、自然環境と社会環境に深刻な諸問題として顕在化している。